

ひょうたけいけ

桜台小 学校だより
令和5年3月13日
第64号



厚生労働省によると、3月13日(月)から「マスクの着用は個人の判断に委ねることが基本」とされました。これまでは「屋内では基本的にマスクの着用が推奨」されていましたが、個人の選択を尊重する形でこの扱いが変更されることになりました。このことを受け、本校においても「歌を歌う」時以外はマスクをはずしてもいいことにし、本日の朝の放送で私から子どもたちにその旨を伝えました。学校においては、4月1日以降「マスクの着用を求めないことを基本とする」という通知が出されています。本人の意思に反してマスクの着脱を強いることがないようにしていきますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

※学校ホームページ「桜台っ子ニュース」では、日々の学校の様子をカラーで紹介しています。

新しい通学班で登校しています。

3月9日(水)5限目に地区児童会を行いました。来年度の通学班の班長と副班長を確認し、実際の隊列に並んでみました。新1年生が通学班に何人入るのかを確認し、隊列のどこに入れるのかも確認しました。その後運動場に集まり、新しい通学班で集団下校をしました。帰る途中に、新1年生へ通学班の案内を届けました。

この日は、新年度PTA地区委員の皆様にも集まっていただき、子どもたちの新しい通学班の確認をしていただきました。集団下校では新しい地区委員の皆様も子どもたちと一緒に下校していただき、子どもたちの様子を見守っていただきました。

3月10日(木)からは、新しい通学班で登校しています。いつもと違った雰囲気、新しい班長と副班長が地区の登校する子たちをリードして学校へと通ってきました。『桜台小学校見守り会』や『PTA地区委員』の皆様にも、大きな声で「おはようございます」と気持ちのいいあいさつができていました。



卒業式の練習が進んでいます。

国歌、校歌を歌ったり、式歌(旅立ちの日に)を合唱したり、卒業証書授与の練習をしたり、6年間の感謝の気持ちや未来への希望の言葉を語ったりと、「第46回卒業証書授与式」に向けて、当日の一通りの動きを6年生全員が確認しています。コロナ禍により、この3年間ほとんど歌を歌う機会がなく、国歌や校歌の歌詞が覚えられていない子もまだまだいるようです。式歌は卒業式を感動的なものにするためには欠かせないものですが、子どもたちは体育館で歌うことに慣れていないこともあり、まだまだ声小さく物足りなさを感じます。顔を上げ「保護者や地域の皆様へ、子どもたち一人ひとりが感謝の気持ちを伝えようと意識する」だけでも合唱の歌声が変わってくると思います。がんばりましょう。

これからの練習では「旅立ちの言葉」として、6年生が思いを言葉にしてつないでいく「呼びかけ」の練習が進んでいきます。卒業式まであと1週間となりました。感動的な思い出に残る卒業式となるように、気持ちを込めて練習に取り組んでほしいと思います。

練習段階での一コマですが、卒業証書を授与される前、名前を呼ばれて返事をし、舞台上上がって振り向き保護者の皆様や6年生のなかまの方を向いて、将来の夢や6年間の思いを語る場面があります。6年生一人ひとりがしっかりと自分の主張したいことを考え、前(未来)を向き、自信をもって大きな声で夢や希望を語っている姿に、私は小学校生活6年間の子どもたちの成長を感じ、とても感動し、うれしく思いました。



卒業式のマスク着脱について

四日市市における基本的な考え方として、「①児童生徒及び教職員については、入退場、式辞・祝辞等、卒業証書授与、送辞・答辞の場面など、式典全体を通じてマスクをはずすことを基本とする」「②国家・校歌などの斉唱や合唱を行う時や、複数の児童生徒による、いわゆる「呼びかけ」を実施するときは、マスクの着用など一定の感染症対策を講じた上で実施する」となっています。本校でもこの方向性に基づき、14日(火)の練習時より、歌を歌う時はマスクを着用し、それ以外ではマスクをはずすことを子どもたちに呼びかけていきます。なお、基礎疾患があるなど、さまざまな事情により感染不安を抱き、マスクの着用を希望する児童がいることも想定されますので、マスクの着脱を強いることがないようにしていきたいと考えています。ご理解、ご承諾をお願いします。

(文責 北住 昌文)